

# 平成22年度 校内研究計画

## I 研究主題

### 学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力を身につけさせる指導の工夫 ～ 算数科の指導を通して ～

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 本校の実態から

平成21年度の仙台市標準検査の結果は、全学年で期待正答率を上回ったものの、4年生は仙台市の平均を下回っていることがわかった。また、苦手な領域があることや、2極化の傾向が見られる学年もあった。

	《仙台市標準学力検査・算数の結果》	H21年4月実施
・2年	市平均比較 ↑ (校内 96.1 市平均 94.4 期待正答率 84.5)	
・3年	↑ (校内 86.5 市平均 84.7 期待正答率 75.9)	
・4年	↓ (校内 79.4 市平均 80.2 期待正答率 73.6)	
・5年	↑ (校内 80.2 市平均 79.4 期待正答率 73.1)	
・6年	↑ (校内 78.9 市平均 76.3 期待正答率 70.7)	

全国学力・学習状況調査の結果は、「基礎」「活用」共に全領域で全国・仙台市の平均を大きく上回る結果になった。ただし、「問題の解決方法を記述する問題」が他の正答率に比べてやや下がっていた。

	《全国学力・学習状況調査の結果》	H21年4月実施
・算数A(主として知識)	全国平均比較 ↑ (校内 84.5 全国平均 78.7 宮城県平均 77.5)	
・算数B(主として活用)	全国平均比較 ↑ (校内 61.7 全国平均 54.8 宮城県平均 54.0)	

以上の結果をふまえ、学力向上の対策が必要である。

##### (2) 今日的な教育の動向から

平成20年3月に告示された新学習指導要領では、改訂教育基本法の新しい理念を教育の目標とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を基盤とした「生きる力」を子どもたちに育成することを示している。

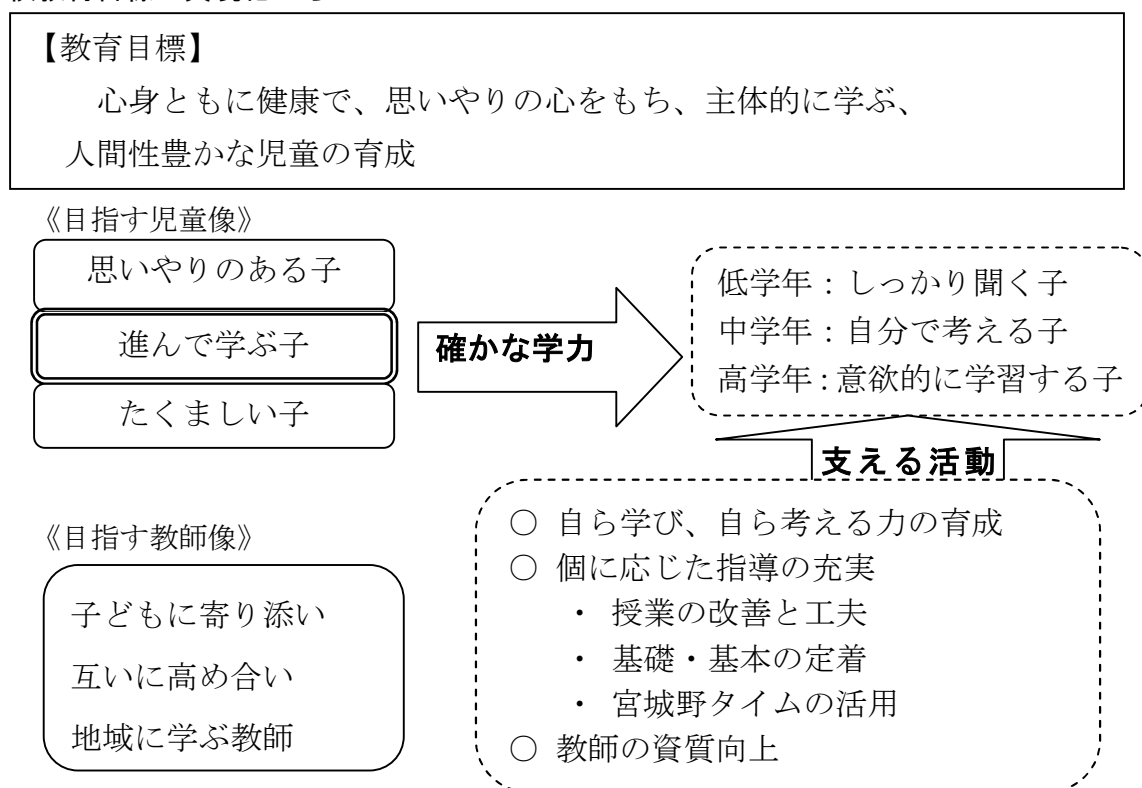
さらに改訂の基本的な考え方として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力判断力・表現力の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」などがあげられている。その中で、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能や学習習慣の確立については、小学校低・中学年を中心に、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基礎を構築していくことが求められている。また、学習意欲の向上については、習熟度別・少人数指導や補充的な学習など、きめ細かい個に応じた指導をすることにより、知識・技能の確実な定着を図り、分かる喜びを実感させることとされている。

仙台市においては、「平成22年度杜の都の学校教育」で、「児童生徒の学習意欲をさらに高めながら基礎的知識の習得の徹底と応用力の育成を図る」ことを目標としている。学校での具体的な取り組みとして、「①基礎的知識の習得の徹底と応用力の育成」「②標準学力検査等の結果を生かした『学力向上プラン』の制作・実践」「③幅広い体験学習の充実と児童生徒の学習意欲の喚

起」「④家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立」に努めるように示されている。

こうした改革の時期にあって、新学習指導要領の基本的な考え方を、算数科を通して実現させていくことは大きな意義のあることと考えた。

### (3) 学校教育目標の具現化から



### (4) これまでの取り組みから

昨年度は、「①算数における言語活動の充実をはかる工夫」「②学習作業能力や学習達成状況に応じた指導の工夫」「③児童の関心・意欲を高める工夫」に取り組んだ。身近にあるものから課題を作ったり、提示の仕方を工夫したりして、課題解決への意欲付けを行うことができた。ワークシートやノート指導、数直線の使い方など、関連する単元を通じて使える学び方を指導したことも功を奏し、自ら課題解決に取り組む児童が増えた。さらに、少人数指導やTT、個別指導など、学習内容や理解の程度に応じた形態で指導にあたることで特に下位群の理解を深めることができた。

高める段階では、ブロックや数直線などを使って自分の考えを表現することができるようになり、話す・聞く活動を通して自分の考えをより確かなものにすることができた。その一方で、「相手に分かりやすく説明する力」「考えながら聞いたり、話し合ったりする力」「基礎的・基本的な知識等を活用して考えたり、表現したりする力」を育てるような支援がまだ十分ではないという反省が出された。聞く、話す活動を中心に指導の継続・改善が必要であると思われる。算数科において言語活動を充実させるためにさらに研究を深めたいと考える。

以上の理由から、算数科指導を通して、学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力を身につけさせる指導の工夫に取り組む。

## II 研究の取り組み

### 1 研究の目標

- (1) 児童が算数に関心をもって取り組み、学力の向上を図るために、算数科の授業改善を行う。
- (2) 算数科における教師の指導力を高める。

### 2 研究の基本的な考え方

- (1) 算数科における「学ぶ楽しさ」について  
「授業において安定感もてることであり、満足感を得られること」であるととらえる。
- (2) 算数科における「確かな学力」について
  - ① 算数の基礎的な知識・技能
  - ② 思考力・表現力
  - ③ 問題解決能力・追求力
  - ④ 未踏視を持ち、筋道を立てて考える力
  - ⑤ 数理的な処理のよさがわかり、活用しようとする力以上5つであるととらえる。

### 3 研究組織

組 織	メ ン バ ー	内 容
研究推進委員会	校長、教頭、教務主任 研究主任、算数主任 各学年研究推進委員	・校内研究・現職教育の計画・運営 ・意識調査の作成 ・授業研究・検討会の運営 ・研究紀要作成の計画・運営
研究全体会	全職員	・研究計画・方針等の協議・共通理解 ・授業研究と事後検討会 ・研究の成果と課題についての協議・共通理解
研究ブロック	低学年部 中学年部 高学年部 特別支援学級	・意識調査、実態の分析 ・研究計画立案 ・教材研究、資料収集 ・提案授業の実施、記録、考察 ・学年部研究の成果と課題についての協議

### 4 研究の方法

#### (1) 実態の分析

- ① 4・5月までの学習状況の観察・テスト等による評価
- ② 3年以上は、平成21年度仙台市標準学力検査の結果の分析
  - ・ 定着状況が不十分な内容とその要因
  - ・ 要因をふまえた指導の改善点として考えられること
- ③ 児童に対する意識調査

## (2) 実践研究

- ① 学年部研究を柱に、全員が授業を公開し、指導法について実践的な研究を進める。
- ② 日々の授業改善に生かせるような事後検討会の持ち方を工夫する。

## 5 研究計画

月	内 容	校内研修会等
4	・ 学年会 ・ 研究推進委員会 ・ 職員会議 (研究全体計画)	・ 図書館利用研修
5	・ 学年部研究計画立案 ・ 実態調査と分析 ・ 研究全体会 (学年部研究計画について)	・ 運動会に向けての実技研修
6	・ 研究推進委員会	
7	・ 研究推進委員会	・ 教育課程研究会 ( 日 教育センター)
8	・ 研究推進委員会	・ 特別支援教育研修 ・ 教育課程研究会伝講
9	・ 研究推進委員会	
10	・ 研究推進委員会	
11	・ 研究推進委員会	
12	・ 研究推進委員会	・ 書写実技研修 ・ 教育課題研究発表会 ( 日 教育センター)
1	・ 学年部研究 (成果と課題)	
2	・ 研究推進委員会 ・ 全体会 (今年度の成果と課題、次年度に向けて)	
3	・ 研究推進委員会 ・ 研究集録	

月		学年・組	授業者	領域・単元
	学年部	年 組		
	全校	年 組		
	全校	年 組		
	全校	年 組		
	学年部	年 組		
	全校	ひまたんこす		
	学年部	年 組		